

べっぶの海辺にぎわい創生協議会（第8回） 議事録

日 時 平成30年2月15日（木） 10:00～11:10
会 場 別府市水道局3階 大会議室

（出席者）11名

今村委員、中山委員、奥村委員、尾田委員、尾野委員、安波委員、鉄田委員、
久保委員（代理：田添氏）、梶原委員（代理：山田氏）、渡邊委員、稲尾委員

1 開 会

（事務局）

- ・委員19名のうち10名（開会時）の出席により、設置規約第8条の規定により、会議の成立を報告

2 協議会委員紹介

- ・団体推薦の（公社）別府青年会議所の委員が地域イキイキ委員会委員長 ニコラス・ライアン氏に変更

3 議 事

猪又会長欠席のため、今村副会長により議事進行

（1）社会実験の中間報告

（事務局）

【「海辺の健幸フェスタ 2017 in べっぶ」の実施状況について】

- ・11月25日に実施したNPO法人大分ライフセービングクラブ主催の健康づくりイベント（ノルディックウォーキング+ビーチフィットネス）の実施状況、アンケート結果について説明

【べっぶの海岸みまもり隊の活動状況について】

- ・今までの活動状況を報告
地元の方の参加が増加
協議会から独立したホームページの開設を行う。

（2）社会実験の追加検討

（事務局）

【シーサイドかまくら de 鍋プロジェクトについて】

- ・実施概要の説明
冬場の海辺の利活用を促進するために、多目的広場にかまくら（スタードーム）を設置し、中で鍋を体験できるスペースを提供する。夜間はライトアップを行う。
- ・プレオープン状況を説明。（製作にご協力いただいた大分県立芸術文化

短期大学の学生を招待)

【ビーチスポーツフェスタ 2018in べっぷについて】

- ・「極寒ビーチスポーツフェスタ 2017in べっぷ」に続くイベントとして、ビーチサッカーやタグラグビー、サップヨガ等を盛り込んだイベントを餅ヶ浜海岸で行う。

【ビーチバレースクール in 別府餅ヶ浜ビーチについて】

- ・大分市に設立された「日本デフビーチバレーボール協会」の提案により、聴覚障がい者と健聴者の交流を図るため、ビーチバレー大会を餅ヶ浜海岸で行う。

(3) 先導的官民連携支援事業の取り組み状況

(事務局)

- ・民間事業者のヒアリング調査結果を踏まえた各海岸の利活用の方向性を提示

(4) 今後の利活用の方向性

(事務局)

- ・比較的自由度の高いエリアで民間事業者の意向も踏まえながら事業化を検討
社会実験により海辺のポテンシャルやニーズの高さが確認できたが、現状の法令、条例では民間事業者の参入は限定的となるエリアが多く、民間事業者のリスクが高い。
- ・今後整備が予定されている観光港の再編整備、海浜砂湯の再整備、北浜緑地の整備と調整を図りながら検討する必要がある。

(5) 今後のスケジュール

(事務局)

- ・協議会、社会実験等のスケジュールについて説明

(質疑応答)

(安波委員)

- ・2年間の社会実験の内容は素晴らしい結果が出ていると思う。今の旅行は体験型が流行っており、観光協会でもこの間湯治体験を行い、餅ヶ浜栈橋でも簡単なヨガを行ったが、評判がよかった。今回の社会実験も体験型が多く、いろいろなプログラムを積み重ねて、いいものが出来上がることを期待している。

(今村副会長)

- ・みまもり隊の活動をこれまで15回行っているとのことであるがゴミの特徴は何かあるのか？

(事務局)

- ・夏場は河川から流れてくる葦などの植物や牡蠣の養殖等に使われているプラスチックのゴミが多く、台風時には流木が流れてくる。冬場は山から海への風となり漂着物は減るが、緑地の樹木の落ち葉や枯れ草が出ているのでその清掃も含めて実施している。行政でも漂着物の回収をおこなっているが行政予算も厳しい状況にあるので、こういったボランティア活動によりきれいな海岸を保つことができる。

(尾野委員)

- ・先日ウォーターフロント研究会で愛媛県と広島県に視察に行き、愛媛県知事を表敬訪問しサイクルツーリズムについて話を伺った。しまなみ海道は毎年約 14 万人が訪れており、多くのインバウンドの利用者もいるとのことである。知事も大分県と連携できれば、日本最古の道後温泉と日本最大の湧出量の別府温泉の魅力を相乗効果で伝えることができると前向きであったので、今後の利活用の方向性の中にサイクリングの視点を是非取り入れていただければと思う。大分市もサイクルイベントを毎年開催しており、宿泊は別府市で行う方も多いと思うので自転車文化を別府でも浸透させてほしい。また、尾道ではU2 といって、県営上屋をプロポーザルで民間事業者がサイクリストをターゲットにしたホテル・レストランとして運営している施設がある。デザインの斬新的なものであり、万人受けしそうにないものであるが、人が集まっている。そういった考えも今重要となっているので考慮してほしい。

(今村副会長)

- ・先日別府市が開催した公民連携 LABO に出席したが、その中でも民間活力を公共施設の再利用に活かした事例の紹介があった。中でも、フィンランドの海辺にサウナを作って、サウナから出てきた人が真冬でもそのまま海に飛び込んでいるという話があり、すごい発想だなと思った。この事業もずっと社会実験というわけではなく、継続して収益を生んでいくといった仕組みづくりが重要であり、その受け皿が必要となるので、先ほどの意見は大事だと思う。

(尾田委員)

- ・さきほどの先導的官民連携事業の説明の中にもあったが、それぞれの海岸の特長を活かしたゾーニングをして事業を行う仕組みづくりが重要であるが、それを継続するためには、やはり人材が必要である。特に若年層の雇用をどう創出して拡大していくかにかかっていると思う。社会実験としてイベントを実施していく中で、日常的に足を運んでもらうためにどのような取り組みが必要か自分なりに案が出てきたので、また事務局に提案したい。
- ・尾野委員の斬新的なものという意見には賛成で、他の一緒のことをやったとしても別府に観光客を引き込むためには魅力が足りないと思う。

(稲尾委員)

- ・さきほど副会長からご紹介いただいたが、2月1日に公民連携 LABO を開催し参加者からも好評であったが、その中の話を紹介させていただくと、現在規制だらけに公共空間となっているのが現実で、いかにオープンな空間にするか、ただし法令違反はできないので、法令では禁止していないけれども運用で禁止しているものを緩和していくことが重要でそのための社会実験は重要な取り組みだと思った。

(今村副会長)

- ・広報の方法ですが、別府は約 8,000 人の大学生がおり、比率で行くと京都に次ぐ学生の街なので、学生の力をどのように引き出すかが重要となる。その点では facebook は学生利用率が低いので Instagram や Twitter の活用を検討してほしい。竹内委員が積極的に大分県立芸術文化短期大学の学生との橋渡しをしており、APU は私を取り持たなければならないと思うのでまた相談に来ていただければと思う。

(尾野委員)

- ・学生に協力してもらうことで学生自身が活動を通じて思いを共有してもらうことが大切である。

(今村副会長)

- ・学生の行事の時期、例えば入学式や卒業式、学園祭にあわせて海辺を交流の場として使ってもらえるような仕組みがあれば、よりにぎわいが生まれるのではないかと思う。

(安波委員)

- ・先ほど斬新的なものといった意見もあったが、日常的な場としての利用も重要で、世の中の傾向としては健康志向があるので、健康づくりの場としての面も考慮してほしい。

(稲尾委員)

- ・海浜砂湯の拡張整備に関し、昨年民間事業者にサウンディング調査を行っているが、その中で一番多かった意見は健康づくりだった。事業者も継続して収益を上げるためには、地域住民の方に利用していただける施設がないと収益性を見込めないといった話をしていた。

(尾野委員)

- ・企業側で考えた時は、海辺のにぎわいづくりと収益性というのは相反するものかもしれない。儲かるもの・儲からないものをセットにしてやる必要がある。大分市は民間スポーツクラブがたくさんあるが、別府は少ないので、健康づくりといった目線はよいと思う。

(鉄田委員)

- ・港などのインフラの整備を行う立場としては、今後こういった議論を踏まえたうえで整備することが必要であると改めて認識したところである。現状の法律の規制でできることとできないことがあると思うのですが、こういった

社会実験の効果を突破口にして、良い方向に進んでいけるよう協力していきたい。

(奥村委員)

- ・いろいろな社会実験の実施や協議会での意見があり、この中から事業としてどのようにしていくかというところですが、観光港の再編をPFIで行う方向であるので、それにあわせて地元としてこういったプレーヤーが出るのが大事だと思う。

(中山委員)

- ・先ほど健康志向といった話が出たが、北地区は10町がすべて海岸に隣接しており、海岸の遊歩道を利用したウォーキング大会を提案しているところである。高齢者や子供が気軽に参加できるように考えているが、北浜緑地整備がまだ終わっていないので完成したあとに計画しているところである。将来的には浜脇、春木の方までつなげて、北浜旅館街の宿泊客も参加できるような形で計画したいと考えている。

(安波委員)

- ・多目的広場は面積があるのでパークゴルフ場としたら人集まるのではないかな？簡単なグラデーションであれば広場としても利用できる。
- ・本協議会とは関係がないが、羽室台高校跡地は修学旅行生用の安い宿舎としても活用できるのではないかな？

(今村副会長)

- ・多目的広場はもったいないと思っていて、冬の花火ファンタジアは昔楠港でやっていた時期は大きなスペースがあり、人が滞留していた。今はスペースが小さいので花火が終わるとすぐに帰ってしまうといった意見もあるので、広いスペースがある多目的広場を利用するといった方法もあるし、大きなライブを開催しても面白いと思う。

4 その他

(事務局)

- ・次回協議会については、3月を予定しているが年度末となるので、4月以降となる可能性もある。
- ・本協議会の役員の任期が2年となっているので、今までの総括と今後について次回説明する。

5 閉会